

草の根通信 NEWSLETTER No.38 ~ 41合併号 <2004.3.29>

ジョン万次郎ホイットフィールド記念 〒
(財)国際草の根交流センター Tel
E-mail;

Thanks Chiba! and Meet at New England Again!!
~ 千葉での感動と再びニューイングランドで会いましょう ~

第14回日米草の根交流サミット ニューイングランド大会(ボストン)

1854年に日米和親条約が結ばれてから2004年は150年目にあたります。また、アメリカで最も古い日米交流の協会であるボストンの日米協会も100周年を迎えます。日米交流150年の記念大会として第14回日米草の根交流サミット大会がボストンを中心とする米国ニューイングランド地方において開催されます。ジョン万次郎が日本人として初めて米国に渡ったゆかりの地、マサチューセッツ州フェアヘブンや、150年前に来航したペリーの出身地であるロードアイランド州ニューポートも会場となります。

開催期間 2004年7月14日(水) ~ 7月21日(水)

スケジュール	行 程 等	備 考
7月14日(水)	成田出発(ワシントンDC、またはニューヨーク経由) ボストン到着 ----- ホテル到着 ニューヨーク経由の場合はJFK空港からバスで移動	日米交流150周年記念、中村座による歌舞伎講演の千秋楽レセプションに参加可
7月15日(木)	~夕方 フリータイム ----- ホテル宿泊 夕方~ 小講演会 開会式、ウエルカム・パーティ(ケネディ・ライブラリー)	フリータイムはボストン名物ダックツアーを計画中(オプション)
7月16日(金)	地域分科会 ----- ホームステイ	
7月17日(土)	地域分科会 ----- ホームステイ	
7月18日(日)	地域分科会 ----- ホームステイ	
7月19日(月)	~昼 地域分科会からニューベッドフォードへ --- ホテル宿泊	
	午後~ ジョン万次郎の足跡を訪ねるツアー(フェアヘブン) 夕方~ 閉会式、フェアウル・パーティ(ニューベッドフォード:捕鯨博物館)	万次郎が通った学校ホイットフィールド船長の生家などを訪ねる。最後は捕鯨記念館での記念展示会
7月20日(火)	ボストン出発 ----- 機内泊 (ワシントンDCまたはニューヨーク経由)	オプションプログラム参加者は各開催地へ移動
7月21日(水)	成田到着	

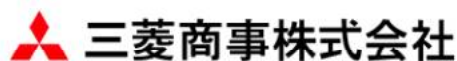
日程は状況により変更になる場合があります。ご了承ください。

宿泊予定ホテル ラディソン ボストン

参加費用 お一人様 239,000円

航空運賃・米国内移動時の交通費、ボストンでのホテル宿泊費(二人一部屋)、開・閉会式や地域文化会にかかる費用が含まれます。

国内地方発着料金; 広島、名古屋、大阪発着は20,000円追加。その他は別途ご相談。



地域分科会予定地とテーマ

ニューイングランドとは、アメリカ北東部に位置する「メイン」「バーモント」「ニューハンプシャー」「マサチューセッツ」「ロードアイランド」「コネチカット」6州の呼び名です。1620年にメイフラワー号に乗り新天地を求めてやってきたイギリスの清教徒たちが故郷にちなんでこの地をニューイングランドと名づけました。アメリカの歴史発祥の地であるニューイングランド地域はヨーロッパの雰囲気の色濃く残っています。四季がはっきりしていて、自然が素晴らしい地域で、夏は避暑、秋は紅葉、冬はウィンタースポーツと一年を通して観光客が訪れます。

歴史的に見て、ニューイングランドは日本と非常に関係の深い地域でもあります。「日本とアメリカの関係」は「日本とニューイングランドの関係」と言っても決して言い過ぎではありません。新渡戸稲造、新島謙、内村鑑三など、日本の近代化への道を開き、日米関係の発展に貢献した人物の多くがこの地で学んでいますし、ジョン万次郎が漂流しその後の両家の交流の端緒を開いたのも、また、ペリー提督の出身地もこのニューイングランド地域です。

	地 域	テ ェ マ	定 員
1	メイン州 バンゴール	メイン大学における地球環境とアケイディア国立公園 ("もし月がなかったら"の著者Dr.Neil Com)	10
2	バーモント州 バーリントン ニューハンプシャー州 ハノーバー	ホームステイプログラム ダートマス大学と自然に親しむ	25
3	マサチューセッツ州 セーラム、ピーボディ	ピーボディ博物館と魔女伝説	20
4	マサチューセッツ州 ポストン	アメリカ生誕の地(独立戦争の史跡を訪ねて)	20
5	マサチューセッツ州 コンコード	アメリカの歴史と自然(アメリカ独立戦争の発祥の地)	20
6	マサチューセッツ州 アマースト	マサチューセッツ州立大学における有機農法と近代農法 (食と水) ウイリアム クラーク博士と札幌農学校(現北海道大学)	20
7	マサチューセッツ州(ニューベッドフォード) フェアヘブン	ジョン万次郎とホイットフィールド物語(捕鯨博物館での万次郎 と日本開国展)	30
8	ロードアイランド州 プロビデンス ニューポート	黒船祭とニューポートマンション(大豪邸)	30
9	コネチカット州 ファーミントン	ホームステイプログラム アミステッド(奴隷開放)の歴史とマーケットウェイン(トムソーヤ)、 ストウ婦人(アंकルトム)の生家を訪ねて	10

< 特別分科会 >

SS	ニューハンプシャー州 セントポールズスクール	21世紀における言語と学校教育(全面禁煙)	30
----	---------------------------	-----------------------	----

オプションプログラム

サミット大会終了後、希望者には3泊4日のオプションプログラムを予定しています。ただし、ニューイングランド・シカゴ・ニューヨークは2泊3日になります。この他、サミットの前後に自由旅行を組むことも可能です。ご相談ください。

1. ワシントンDC&バージニア州(ホームステイ)	15,000円	定員15名
2. ナカドーチェス(テキサス州)(ホームステイ)	45,000円	定員10名
3. コロラドスプリングス(コロラド州)(ホームステイ)	45,000円	定員30名
4. ニューヨーク(ニューヨーク州)(ホテル泊)	35,000円	定員20名
5. シカゴ(イリノイ州)(ホテル泊)	35,000円	定員10名
6. ニューイングランド地方(ホテル泊)	35,000円	定員20名



ありがとう千葉。交流の礎が海を渡る。～第13回日米草の根交流サミット千葉大会より～

第13回日米草の根交流サミット千葉大会が、2003年10月15日～21日に開催され、米国から約110人が千葉県を訪れ、千葉県内約100家族にホームステイをし、交流を実施しました。今号では、各分科会の事務局の方からのまとめを中心に参加者の声を交えながらその様子を紹介し、大会は日米草の根交流サミット千葉大会推進ボランティアグループあんさんぶる・ちばの皆さんや各地域分科会の実行委員会、ボランティア組織の皆さんを中心に開催されました。

1. 基調講演会 (10月16日(木))

「 Wisconsin から世界へ - キッコマンのグローバル化」 キッコマン社長 茂木 友三郎氏

「第13回日米草の根交流サミット千葉大会」において地元千葉県野田市に本拠をおき、日本食文化の象徴であり、又代表的伝統文化の一つと称すべき醤油を、アメリカをはじめとして世界各国に普及させ、「Kikkoman」を世界のブランドにまで育てた、キッコマン株式会社代表取締役社長の茂木友三郎様に基調講演をしていただくことができました。

NHKの看板番組の一つである「プロジェクトX」で紹介されましたが、アメリカでの本格的な醤油市場開拓と拡大に乗り出したのが、1957年。それからの長い苦労と経験の集大成として、アメリカ・ウィスコンシン州ウォルワースに海外初の醤油製造工場を建設したのが、今からちょうど30年前の1973年のことです。以来、醤油はアメリカ人の食生活にも大いに溶け込み、ハインツやデルモンテの調味料を置いていない家庭はあっても醤油を置いていない家庭はないといわれるまで受け入れられるようになってきました。

日本食文化の象徴を海外の一般家庭まで普及させると共に、海外食文化と醤油の融合を積極的に進めておられるキッコマンの姿について直に茂木社長より伺うことができました。



<参加者の声>

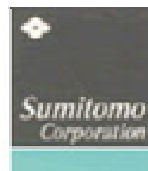
サミット一般参加者 (from カリフォルニア) :Soy sauceは、日本のとてもFavoriteな調味料のひとつだが、米国とあんな繋がりがあることは知らなかった。また米国でのシェアが1番であるということを知り、とても身近に感じることができた。そのシェアを獲得するための、企業努力も紹介され、やはり日本企業(日本人)は勤勉な民族なのだ改めて感じた。

ボランティアの声 :一部上場・キッコマン(株)の社長でいらっしゃる茂木氏が講演されることは勿論、千葉の名産かつ米国との繋がりが深い「醤油」をテーマとしていたため、聴講する側も興味を持って聞くことができたと思う。日本に興味を持つ米国の方々に参加とはいえ、普通に日本の紹介をするだけでは難しい時の流れになったことであろう。ただ、人間にとって不可欠な「食」の幅を際限なく広げる可能性を秘めた「醤油」、しかも世界中に認知されるに至った「TERIYAKI」の必須調味料である「醤油」をテーマに、且つ米国との長年に渡る関係そして米国での活動を交えた内容で講演されたことは、とてもよかったと思う。参加者からの声にもあったが、「醤油」が日米問わず生活の一部に感じられた時間であった。



NEC

AEON



東京電力
TEPCO

2. 開会式・歓迎レセプション (10月16日(木))

千葉サミットはキッコーマン茂木社長の基調講演に引き続き、神田外語大学の場をお借りして開会式、ウエルカムパーティが開催されました。基調講演からは部屋を変えての移動があり、ボランティアの方々にはその準備に非常にご苦労戴きました。司会はボランティアの学生による若さと熱意の溢れる進行となりました。一部運営上の混乱もあり、運営に反省点は残りましたので、次回以降のサミット大会の運営に活かしていきたいと思っています。

(1) 開会式

- 和太鼓演奏 …… 開会会図 ファンファーレ
- 開会の言葉 …… あんさんぶる・ちば 代表 内海 道郎
- 主催者挨拶 …… (財)国際草の根交流センター理事長 波多野 敬雄
- 日米国歌演奏 …… 神田外語大学吹奏楽部、シカゴ子供合唱団
- 挨拶 …… 神田外語大学長 石井 米雄
千葉県副知事 白戸 章雄
千葉市助役 小島 一彦
- 来賓紹介
- 中浜家・ホイットフィールド家地球儀引継式
- 記念品交換 …… 「蓮」の種交換
ホール入り口にて 次期開催地、分科会開催地案内



(2) ウェルカムパーティ



3. 地域分科会

(1) 我孫子分科会

～手賀沼のほとり 心輝くまち(人・鳥・文化のハーモニー)～

COME TO ABIKO AND FIND OUT HOW IT'S LIKE TO BE A BIRD

我孫子市分科会は、例年11月に催されている「我孫子市国際交流協会」主催による「あびこ国際交流まつり」を前倒して10月に開催し、この分科会をこの「まつり」のプログラムの中のハイライトとして位置付けて実施しました。このために、相乗効果が発揮され、「まつり」プラス「分科会」の形で大成功をおさめることができました。

企画・運営は我孫子市国際交流協会の中に、市の企画調整室の管理職をメンバーとして含めた「実行委員会」を設立して、プログラムの企画から運営に至るまでの全てをこの協会が担当しました。企画・運営に関しての主たる協力機関として、我孫子市役所、我孫子市鳥の博物館、山階(やましな)鳥類研究所、大龍山正泉寺(しょうせんじ)、相島(あいじま)芸術文化村、中央学院大学、その他 神輿の貸出し、着物の着つけなどの数多くのボランティアの皆様のご多大なるご協力を仰ぎ、会の成功に多大なる貢献を戴きました。また、特別講演の講師としてのご参加を戴いた中浜万次郎の子孫、小西(旧姓・中浜)圭 様からは格別のご協力を戴きました。

我孫子市分科会へのアメリカからの参加者は、Mr. Robert Whitfield 他3名(計4名)に加えて、特別参加者として現在、山梨県富士吉田市に在住でアメリカ出身の英語教師助手が全行程に参加したために、総合計は5名、10月16日の開会式には、我孫子市国際交流協会から代表として1名が出席し、同月19日の閉会式には、我孫子市役所から4名(企画調整室室長以下3名)、ホストファミリーが5名、我孫子市国際交流協会から2名が見送りを兼ねて出席しました。

分科会のハイライトはホイットフィールド船長の5代目の子孫のMr. Robert Whitfield と中浜万次郎の5代目の子孫の、小西(旧姓・中浜)圭 様による講演でした。万次郎と船長の最初の出合い、船長の援護によるアメリカでの生活・教育、などに関する両氏の講演は実に興味深く、聴衆を魅了しました。



小西(旧姓・中浜)圭さんの講演の様子



Mr. Robert Whitfieldの講演の様子



<参加者の声>

ボランティア参加者: 新しい出会いに満ちた2日間でした。アメリカ各地からのゲスト、ホストファミリー、お手伝いのAIRA会員、多くの方々と初対面でした。また市内訪問の各地も初めての所でした。25年も住んでいる我孫子ですが、自分の人生を別の角度から見るようになりたいと思って、と日本語学習を始めた動機を語って女子高校生を感動させたAさん。まんがとアニメに心を奪われ日本のことを思い続けたJさん、そしてJ君の夢がかなえられたことを話して涙を流したKさん。

あの2年前のテロでペンタゴンの警備にあたり、ワシントンDCの警官であることを誇り高く話した後、低い給料に妻は不満だと下を向いてニヤリとする、袴姿もりりしいSさん。9.11テロ直後のAIRA弁論大会で、テロに対して強い関心を示し武力での報復を望まないという英語で熱っぽくスピーチした中学生たちも今は高校生のはず。あの時と同じこのホールでSさんと話しあうことができたらどんなに話が弾んだことでしょう。文字どりの「草の根」サミットを十分に楽しませていただいたことをお世話いただいた皆様に感謝いたします。



我孫子市国際交流協会 会報 第38号(2003年12月発行)で千葉サミットが紹介されました。

(2)木更津分科会

～人と歴史と自然の町～

CITY OF PEOPLE, HISTORY AND NATURE

木更津の地名の由来となった「日本武尊と弟橘姫」の悲恋の伝説や童謡「証城寺の狸ばやし」で有名な木更津。海岸部には東京湾最大の盤州干潟が、内陸部には万葉集の東歌に登場する緑豊かな上総丘陵があり、自然に恵まれた地域です。

ホームステイや学校訪問・日本伝統文化の体験を通じた、草の根交流により市民や児童・生徒の国際感覚が磨かれ、今後の更なる国際交流の礎となりました。

木更津分科会は、手作りの心のこもったおもてなしを1年がかりで計画しました。これを計画したメンバーはもちろんのこと、ホストファミリー・通訳・協力団体のすべてがボランティア。活動資金も呼びかけに応じてくれた皆さんからの賛助金・募金・フリーマーケットの売上によるものです。私たちがどこまでできるかがこの3日間にかかっていました。今思うと「ああすればよかった・こうすればよかった」と思うことばかりですが、そのときは夢中で気がつきませんでした。

初日のバスの乗車から食い違いがありましたが、バスのなかでは、合唱もあり、とても和やかでした。海ほたるでは全員で記念撮影、笑顔が印象的でした。

学校訪問交流では、「子どもたちと給食を一緒に食べ」、言葉は通じなくても手振り・身振りで交流を図っていました。また、墨絵の実演や歌の交換、剣道体験や「よさこいソーラン」踊りなどに参加し、子ども同士うちとけていました。

歴史体験交流では、旧安西家で「民話の語りや紙芝居」「あられ作り」「昔の遊び」などの庶民文化体験を通じての交流に目を輝かせていました。

対面式では、ゲストとホストファミリーが手をつないでいるのが印象的でした。大きなアメリカの地図にゲスト一人ひとりが自分の出身地をピンで記していきアメリカの広さを実感させられました。

日本のまつりでは、伝統音楽民俗芸能(神楽など)の鑑賞・餅つき体験、そして、着物の着付け体験も行われ、着物に下駄を履き、踊っていましたがとても上手で日本人顔負けです。また、木更津にある「真如寺」を訪問し、本堂の畳の上にあぐらをかいて、「お寺の由来や仏の教え」の説明に興味深く、聞き入っていました。

フェアウェルパーティーでは盛りだくさんのお料理に、お抹茶のお手前や太巻き寿司実演・体験、和太鼓演奏にバンド演奏、そして、全員で「さくらさくら・おおスザンナ」を合唱しました。

ポルダ・シンフォニーやシカゴ合唱団の子どもたち一人ひとりがこの分科会に参加して良かったことや楽しかったことを発表してくれたこと(自分の意見をはっきり伝える)に、感動しました。

反省点としては、事業が多すぎ駆け足だったこと。もう少し余裕を持てたら良かったかなーと思っています。

「みんなの力は大きい。」



<参加者の声>

ボランティアの声： 苦労したこと、大変だった事なんて感じさせないくらい、楽しい事うれしい事でいっぱいでした。ゲストが音楽関係者だったことで、自分と共通の事をしているため、とても息が合い、音楽という一つの事を通して違う文化&違う言葉という壁を越えてコミュニケーションできたことが何よりも幸せでした。

特にMさんと夜、Violinの曲について、弾き方についてなど話した時が本当にうれしかったです。又、お互いのFolk Songを弾きあったり、歌ったりしました。音楽を通して、こんなにも分かち合えるなんて思ってもいませんでした。感激です！演奏会でも、シカゴ合唱団のゴスペルを聞き、さすが本場だな～と思いました。

演奏後のパーティでも、皆楽しそうに交流していましたし、本当に素敵な日米の交流が出来たと思います。最後の日の公民館でもパーティも素晴らしかったです。太巻き寿司作りや茶道などの企画、とてもGoodでした。

Mさんとはこれかも、ずっと交流を続けていくつもりです。1つ1つの出会いと国際交流を大切にしていきたいと思っています。又、このような企画があるときには、是非参加させていただきたいな～と思います。

本当に充実した3日間でした。どうもありがとうございました。最高！！

ボランティアの声： ゲストが来るまでの何日間は、チョット不安な気持ちで過ごしました。と、いうのも、ホストファミリー応募させてはいただきましたが、私はそれほど英語が堪能ではありません。ごくごく基本的な会話しかできないので、緊張しながらの対面式でした。

しかし、ゲストのフレンドリーな性格とおおらかに助けられ、大変楽しい3日間を過ごさせていただきました。東京湾越しに見えた富士山、日本式のお風呂に彼女がとても喜んでくれたのは良い思い出となりました。又、日本の各合唱団の素晴らしい歌声、シカゴクワイアのパワフルなゴスペルには本当に感動しました。このような素晴らしい機会を与えてくださった分科会の皆様に本当に感謝しています。

(3) 千葉市分科会 ~ TOUCH MY HEART CHIBA CITY ~

SARSやテロなどで世界情勢も厳しい中、どのぐらいの人がくるか心配していましたが、アメリカからの申込者5名と千葉市在住のアメリカ人4名計9名をおもてなしました。

東京の隣、成田空港もディズニーランドも幕張メッセもあるのに千葉の名前はアメリカ人にはあまりピンとこないように思われました。そのような郷土千葉市をよく理解してもらおうと、盛りだくさんの企画を用意して、運営ボランティアの皆さんを募集しました。また、ホームステイボランティアについても、ただ泊めさせるだけではなく独自のプログラムで迎えてくれることを期待して分科会は1日の設定で開催しました。

さて、1日目の分科会ですが、やはり時間的に1日でこなすにはあまり余裕のないプログラムになってしまいボランティアの皆さんにも迷惑をかけたことが反省する点ですが、ゲストはすべてのプログラムを楽しんでくれたようです。

準備段階から、出迎え用の国旗作りや参加記念品の制作、パーティーの食材選び・調理器具の持ち寄りなど運営ボランティアの活躍により手作りの分科会ができたと思います。また、ちぎり絵、パーティーでの琴の演奏、着付け、和菓子作りの講師など多くの方の協力を得て開催できたこと、多くの方と交流できたことが収穫となりました。

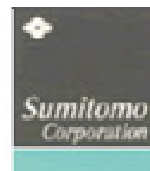
なかでも、高校生のスポンサーさんは、自転車競技が得意で、白転車持込で練習するという別プログラムでしたが、幸い千葉市には千葉競輪場がありそこでプロと一緒に練習できるようコーディネートしたところ非常に喜んでくれたのが印象に残っています。

なにはともあれ、7月の企画段階からボランティアさんとともに活動し、反省点はあるものの、触れ合った人たちがこれからも末永い交流が続けばと期待しています。



NEC

AEON



東京電力
TEPCO

<参加者の声>

米国人参加者: 日米草の根の千葉市分科会大会に参加できて本当に感謝しています。

色々な日本の文化を自分で体験するのはとても楽しかったです。特に着物を着るのは初めてで、お姫様みたいに素敵な気分でした。(鎧もちょっときてみたかったですけど) ちぎり絵も和菓子も作るのは、楽しかったし、いいお土産でした。お昼のカレーパーティで沢山おいしいものを食べてごちそうになりました。

ボランティアの人たちが作ってくれたものは特においしかったです。それにボランティアは皆親切でいい人達でした。その1日は大切な日本の思い出になったので、本当にありがとうございます。

ボランティアの声: 4泊5日という短期間のステイでしたが、とても楽しい15日間でした。ペギーさんは日本食を何でも食べる事が出来る方でしたし、特に気を遣うことは何もなく、日本人の友人をお世話するのと同じように接待させていただきました。(初めてのホストですが楽でした。) 夕食は外食も考えたのですが、帰宅時間が予定通りにならない場合も考慮し、自宅で普通の気取らない食事を用意しました。作り方を説明したり、材料のことなど話題に困ることなく返ってよい結果を得られたと思います。英会話力の無いホストにもあきれ顔を見せず、気の長い対応に感謝しています。(ゲストの優しい性格のお蔭です。) 正直、18日は早朝から鎌倉散策・帰宅後派遣生家族とのパーティの準備、そしてパーティとチョット疲れしました。(今回の派遣生のご家族はとても盛り上がる方々で11時までのパーティとなりました。)

でも、山田先生を初め交流協会の皆様の素晴らしいサポートのお陰で無事ホストを務めることが出来、大変感謝しています。ありがとうございました。

(4)成田市分科会

~日本の歴史、文化、宗教、伝統、風俗の紹介・体験~

IN NARITA, EXPERIENCE JAPANESE HISTORY, TRADITION, FOLKLORE AND BUDDHISM

米国からの参加者からも感謝され、成功したと評価されており、大会関係者も別段運営上の齟齬もなく無事終了することが出来たと考えている。無事に、感謝されて終了できたのは、資金面での賛助者それにホストファミリー、ボランティア、事務局の絶大なる協力の賜物である。

・ゲスト(米国人、アメリカからの参加者)の分科会への感想

ワンダフル、空港はしゅっちゅう利用しているが成田(千葉)にこんなにいい所があると知らなかった、訪れた人も場所も素晴らしかった、金メダル分科会、スケジュール全て楽しむことが出来たGreat!

・ホストファミリーの感想

関係者の努力で満点以上の出来、ゲストも心から満足してくれた、ボランティアとの交流などにゲストは感心していた、スペイン語可能家庭を斡旋する成田実行委員の努力に「交流」の原点の温かいものを感じ、ゲストもスペイン語可能家庭があるとは思っていなかったようだ、素敵なお友達が出来て嬉しかった、日本文化体験は人気があったようだ。

〔分科会こぼれ話〕

ゲストの中に一歳九ヶ月の可愛い男の子がいて皆の人気者だった。とても元気が良く走り回って我々が「こっち・・・」と言うと「ザウエイ」(that wayの幼児語か?)「ジウエイ」となかなか捕まらない。何にでも興味を示し、琴にも触りたがるし、和傘を開いたり、閉じたりでこうやってと教えようとする大泣きする始末。しかし、さすがに大竹道場の迫真の演武のときには静かで、後で「エイ、ヤー」と刀を振り回す仕草をして、お母さんは一寸心配そうだった。

大学生のクラウデアさんはスタイル抜群の美女で、明るく話し好きで人気者。着物が大好きで着物姿のアデやかさで人目を引いた。着物姿といえば、着物を着たボランティアも目立っていて、盛んに話しかけられていた。やはり日本女性は着物姿が一番モテるのか?

ゲストの団長格のポール・マルヤマさんは日経の柔道家で東京オリンピックの米国代表選手だったとかで日本に知己の多い人。CIE - USの代表として今回も参加者の募集に尽力され、大会の準備や運営の苦労もよくご存知の方、歓迎会でのスピーチの中でもそういった発言があった。大竹道場の演武には感銘を受けられたのか、翌日道場に大竹利典師範を訪問して武道について話が弾んだようだ。話によると、マルヤマさんのよくご存知のアメリカ人柔道家が道場で17年間弟子として修業したとか。マルヤマさんの古武道への関心を予測して、ステイの場所の選定などの配慮がお役に立ったのではないかと考えている。

テキサス大会の際、コロラドスプリングスのマルヤマさんの家でのホームパーティで我々日本人参加者は温かいおもてなしを受けたが、その中の我々3人が歓迎会に出席し再会を果たすことが出来た。



<参加者の声>

ボランティアの声: 「日米草の根交流サミットでスペイン語しか出来ない人が来る」と聞き、英語の通じないコミュニティーも多々ある彼の国では不思議でもないと思いつつ、ホストファミリーを引き受けました。会ってみてびっくり「アメリカに留学中のお嬢さんのところへ遊びに行った正真正銘のメキシコ人」でした。

いきさつは分かりませんが、「日米草の根交流」に参加を認めた彼の国関係者、それを受け入れた日本側関係者、そして、なによりも彼らのために懸命にスペイン語可能家庭を探し出された成田地域分科会実行委員会の方々……。その視野の広さと相手への思いやりのある便宜、「交流」の原点にある暖かいものを感じました。

歴博では日本文化、歴史への強い関心を持ち、日本食を美味しく食べるなど、我が家でひと時を過ごされた夫妻は、こうした関係者の心意気に応えるにふさわしい視野を持ったすばらしいコスモポリタンでした。

今、成田には「英語を話す一時滞在の外国人(申し訳ないがALTの人など)」の数倍の数の「英語が話せないスペイン語やポルトガル語を母国語とする人々」が安住志向で生活しています。彼らの多くは、私の知る限り、職場以外での日本人との交流の機会はほとんどなく、「共住」問題が顕在化しつつあります。

「英語」以外にも応えようとしたスタッフ、「英語が通じない外国人」と交流の機会を持たれた皆様(特に子供たち)にとっても貴重な体験だったのではないのでしょうか。「英語を話さない外国人」にももっと関心を向けてほしいものです。

P.S. 今後も、スペイン語圏からの来訪者への対応などでは、可能な限り国際交流協会に協力していこうと思います。(よく考えてみれば私も交流協会員でした。)

ボランティアの声: 日常会話もおぼつかない私たちの家へ遠い米国よりのお客さまを迎えることを決めてしまってから娘が「お母さんは無謀！」と言い、当日が近づくにつれ不安と緊張感がつのるばかりでしたが、当日親しみのある笑顔のカレンさんに会ってからはその気持ちも安心感に変わり、何とか身振り手振り知る限りの単語を並べ、後は娘を頼りに心ばかりのもてなだったような気がします。あれもこれもいろいろ考えていたことが半分も出来なくて心残りは沢山ありますが、お別れするときのKさんの笑顔と涙に、これでよかったのかなど自己満足でした。スケジュールの中での日本文化体験は積極的な外国の方には人気があったようで楽しそうに話をされていました。3日目最後の日は友人宅へ依頼してあった日本庭園とお茶席の接待で日本の静肅な時間を楽しみ、お茶が気に入られたようで土産にも求められていたようです。私たちも家族皆すばらしい出会いに感謝しています。ありがとうございました。



千葉サミット大会が成田市国際交流協会
ニュースレター 2003年11月号や成田
市広報誌 広報なりた 2002年11月で
紹介されました。

(5)野田市分科会

第1日目は、野田本社でウェルカムパーティーを開催。歓迎スピーチ、野田市国際交流協会による野田市紹介に続き、ゲスト&ホストファミリーの紹介・対面式。乾杯のあとは、buffestailの和食ランチで、歓談タイムとなりました。そのなかで、ゲストの方から日本語でスピーチをいただき、「文化の相互交流」を例えた「日本はアメリカにスシを持ち込みました。そしてアメリカは、日本にカリフォルニアロールを持ち込みました。」ということばに、参加者全員が大きくうなずいていました。その後、偶然にもにぎり鮭のデモンストレーションに続き、盛況のうちにパーティーは終了しました。

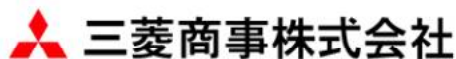
パーティーの後、ゲストとホストファミリーは、バスに乗って野田市内見学へ。ゲストの方には、工場に漂う香り(しょうゆや、大豆から出る香り)が意外にも好評でした。見学終了後、ゲストとホストはすっかり打ち解け、それぞれのご家庭へ向かいました。

2日目は、自由参加のオプション・プログラムを実施。江戸時代の日本の屋敷建築と、市内のレストランで、おしょうゆをつかった洋風ランチをお楽しみいただきました。

3日目(最終日)は、市内の公園・フラワーガーデンの自由散策の後、バーベキューで最後の歓談を楽しんでいただきました。別れ際には参加者の目から涙があふれ、3日間に渡る野田分科会は、「日米交流」への確かな足跡を残して、終了しました。

野田分科会は、当社の社会貢献活動の一環として実施しました。ホームステイを含む大掛かりな国際交流企画は初めてのことで、まさに「黒船到来」という感じでしたが、野田の地域の皆さまに支えられ、大勢の社員が知恵を出しあい、無事に終了することができました。

イベントを企画するにあたり、野田という地域の魅力を追求してゆくなかで、奥ゆかしく、ぬくもりにあふれ、長い年月を積み重ねてなみずみずしい日本ならではの文化を、再確認することができたように思います。アメリカのことはもちろん、自分の生まれ育った日本について、もっともっと知りたいと考えるようになりました。





<参加者の声>

ボランティアの声:「週末の家族が寛げる日程でよかった」と思っていますが、おみえになったご夫妻は日本語を話せる方でコミュニケーションが十分とれただけに「楽しい時間は早く過ぎるもの」と実感しました。興味深く、楽しく貴重な体験でした。

お食事が合わないのではないかと心配がりましたが、お二人とも日本食が大好きで拙い家庭料理を後々までもほめてくださり、気持ちよかったです。特に鉄板焼き、てんぷらが好評でした。

分科会担当の方々が資料館などを利用できるよう配慮してくださっていたので、ご夫妻と相談しながらうまく活用できました。計画上の負担を感じなかった点も気楽に楽しめた要因だったと思います。

日本文化に興味をお持ちとのことで、庭を隔てた70数年の純日本家屋の両親宅で毛筆習字と琴に挑戦していただきました。大変よこんでくださり、またその日は習字と琴をたしなむ母とごく普通の古い家が輝いて見えました。

ボランティアの声: Spencer Hartfieldさんと共に、家族みんなで楽しい時間を過ごす事ができました。今、私とSpencerで毎日メール交換をしていて、よっぽど日本を好きになったのが又今年の12月末に日本に遊びに来るかもしれないということで又会う約束をしました。

ステイ中は、お茶碗をもってご飯を食べるといった習慣を知らなかったり、ラーメンを食べるときに私達が“美味しい”と言って音をたてて食べるときに彼はチョット戸惑っていました。

反対に彼からもアメリカの生活習慣や文化、彼が住んでいるカリフォルニアについて沢山教えていただきとてもよい勉強になり嬉しかったです。

100%言葉は通じませんでしたが、家族みんなで暖かく迎える事ができ、またこうして彼と日本で会う約束ができとても嬉しく思っています。

(6)松尾町分科会

～伝統が息づき文化が芽吹く「神楽の里」を訪ねて～

「松尾町」の情報を「アメリカ合衆国」にアピールする絶好のチャンスであることから、「松尾町」の歴史や文化に触れ合い、本町の魅力を十分に味わっていただくとともに「日米草の根交流」の輪を広げることを目的に、10月17日(金)～19日(日)の3日間、本町分科会を“松尾づくし”と題し、ボランティアグループ「ESPERANZA、まつお」(前田啓二郎代表ほか10名)の企画運営により開催しました。

この分科会には、バーンご夫妻、アレックスさん、マークさんの4名が「松尾町」を訪れ、餅つき・土器発掘体験・太巻きずしづくり・竹とんぼづくり・習字などの体験を通じ、また、町内の家庭にホームステイし、市民間の交流、友情を深め、多くの出会いと感動が生まれました。

“ESPERANZA、(エスペランサ)[スペイン語で“希望”という意味]

本町の分科会は、松尾町の歴史や文化に触れ合い、松尾町の魅力を十分に味わっていただく、その名も“松尾づくし”でありましたが、十分に堪能していただくとともに「アメリカ合衆国」に日本の「松尾町」の情報を些少でも発信できたのではないかと自負しています。

分科会初日は、807年創建と伝えられる「大宮神社」の例祭において神輿の渡御を見学。「松尾町」の古き良き歴史に出会い、続いて臼と杵で餅つきを体験。実際に搗いた餅を試食しながら、歓迎セレモニーを行いました。続いて、「古代ロマン」を求めてをテーマに埋蔵文化財発掘調査現場において、土器の発掘を体験、また、例が少ない3重の堀を所有する山武地域最大級の前方後円墳である「大堤権現塚古墳」を見学。古代にタイムスリップし、「古代ロマン」を満喫していただきました。

続いて、大会歓迎セレモニーの鏡開きに提供した樽酒の蔵元である「寒菊銘醸」の酒蔵を見学、利き酒を行いました。

2日目は、まつお自慢体験記と題し、伝統料理である「太巻きずし」づくりに挑戦。それぞれ自身で作った「太巻きずし」を試食しました。続いて、昔の遊び道具である「竹とんぼ」「こま」づくりに挑戦。童心に返り、昔の遊びに熱中する姿がありました。

最終日は、習字を行い、自分の好きな言葉を書いていただき、額に入れ、記念品として贈呈しました。最後にお別れパーティーを開催。やっと慣れ親しんだ頃には、本分科会の最終章を迎えていました。

あわただしく、長いようで短かった充実の3日間、「ESPERANZA、まつお」のメンバーにとっても人生の一生忘れられない体験となったことは間違いありません。

最後にNさんが言った言葉が「松尾町一番」。

感謝の気持ちと充実感、別れの寂しさが入り混じり、「感動」「感動」「感動」の嵐でした。ナタリーバーンさんの一言がこの分科会そのものを物語っていました。





<参加者の声>

ボランティアの声: 大変優しい性格の方でした。しかも出したものは何でも食べてくださった。梅干だけがちょっと参ったようだ。キンピラ、焼き魚、味噌汁、とうふ、なんのためらいも無く食べてくださった。箸の使い方も上手だった。イチゴジャム、マーマレード、おしんこ等我が家の母の手作りのものを出した。甘酒も飲んでくれた。食事に好き、嫌いのない人は大変心が広いような気がする。

日常の我々の口にする日本食を出した。極め付けは納豆。きっと“OH! NO”位言うだとうと思っていたが食べてしまった。夜は奥さんの方が、ピアノでエリーゼのためにを弾き家内はエレクtoonで4曲と英語で歌を歌った。日米の音楽交流である。朝、季節外れの桜が2、3輪咲き、びっくりし、感激したようだ。父や母の方は言葉ができないがコミュニケーションはうまくいったようで、今まで外国人を家に迎えるのを嫌がっていたが、こんなに楽しいものか、もっとこういうことがあるといいなといていた。

大変内気な家内も、外国人のお客様の前で楽器を演奏したり、まして歌を歌うなんておおよそ考えもしなかったが、人が変わったように思えるほど一生懸命やってくれた。別れの朝、「ミモザ」の木を植え「バーンの木」と名づけ記念樹としその成長を写真で送ることとした。

ボランティアの声: 私の家族は祖父、夫、長女(中3)、長男(中1)の5人家族です。アメリカ人をホストすることは初めての経験になります。受け入れの理由につきましては、私達ホストファミリーにとって、又 MARK MILLERに対しても人生の勉強にいいなー、そして国際交流に大きな貢献ができたらと思い、受け入れることをファミリー全員で決意しました。初日はものすごく来たいと不安でHEARTがドキドキでした。それというのも、私のファミリーは英語が大の苦手で単語を並べて理解してもらっただけで精一杯でした。一番の苦労だったと思います。わからない言葉は子供たちがDICTIONARYで調べて理解してもらいました。その様子を見てかMARKもすっかり打ち解けて、2日目の夜は皆でトランプゲームをしたり、指あそびをしたりして楽しく過ごしました。

ファミリーサービスとして「太陽の里」温泉に行きました。MARKはすごく喜んでくれました。美濃輪ファミリーにとって一番うれしかったこと、それは・・・言葉が通じないことはとても不便なことです人には大切な「心」があります。人を思いやる心があれば、英会話が苦手であっても「心」がお互い通い合うことができるんだという事が今回ホストファミリーをやって分かったことです。3日間は私達にとってハードスケジュールでしたが、その分初めて経験することが沢山あり、人生の勉強にもなりました。又このボランティアを通して多くの人たちと知り合う事ができたこと、とてもうれしく思います。今後もこれを機会に次の受け入れをファミリーで考えています。

希望(ESPERANZA)をもって皆で頑張りたいと思います。最後に今回ボランティアされた方々大変お疲れ様でした。これからも宜しくお願いいたします。

(7)茂原市(白子町)分科会

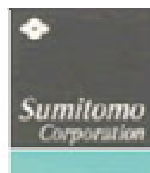
A clean city blessed with gorgeous, natural environments. Visit Kujukuri Beach the longest stretch of sandy beach in Japan

茂原市は国際協会のような受け入れ団体がなく、準備委員会を立ち上げるところから始まった。日本語ボランティア、NPO法人ふるさと未来ネットワーク、青年会議所の有志と一般ボランティア計12名で試行錯誤の連続。企画は何度も練り直された。茂原ニュースはNo5まで発行。市役所、あんさんぶる・ちば、財団の協力と個性的なメンバーに恵まれ、分科会を無事終了。コアメンバーの人数もちょうどよかった。アメリカから9名参加。温かいホストファミリー6家族と、当日ボランティアの協力で、なごやかで楽しいおもてなしが出来た。感謝!



NEC

AEON



<参加者の声>

ボランティアの声: 分科会終盤、ひびき太鼓の面々が「恋のフーガ」演奏終了直前、秋祭りのお神輿が広場に入り場内を練り歩いた。なんというハプニング！ 今回の分科会はこれに象徴されるがごとく、うれしい偶然ともいえる出会いが数多くあった。もちろん、紆余曲折があり、反省点もたくさんある。あるが、地元の皆さんの「茂原地区を知ってもらいたい」という熱い思いが「茂原地区へようこそ」という歓迎へと結びつき、「あんさんぶる・ちば」・財団・行政のバックアップとで、楽しい分科会が開催できたと感謝したい。

初めは茂原市主催を目的に動き出したが、それがままならず、いざ自分たちで立ち上げるという段階になったとき、「資金面はなんとかかなよ」という甘い言葉に励まされ、また、スタッフや市役所大塚氏、本部スタッフの援助で、次々とドアが開かれていったように思う。

茂原には大きな目玉となる観光資源がない、それなら人物紹介で行こう、日本の普通の生活を見ていただく(生活探検隊)と始めた茂原ニュース。反応がなかったので途中で頓挫してしまっただが、茂原にもこんな人がいる、こんなにすごいことがあると「へえ」の連続だった。ヨードの生産では茂原地区が世界第2位だっただご存知でした？

SARASが吹き荒れた今年の春は、もう誰も来ないかもしれないと沈滞したムードが漂った。活気付いたのは、やはりゲストが決まってから。9月10月と企画がめまぐるしく変化し、最終的に落ち着いたのは直前10日前という慌しさ。スタッフの人脈が効力を発揮し、相手のあることを思えば、ベストの形だったのではないかと。ゲストの方には少々ハードスケジュールだったかもしれない。リービーターが多く、どんな体験をなさったのか聞いておけばよかったなあ。ここで英語力。ジェームズさん、大村さん、Help me!

ゲストの皆さんは砂風呂以外の企画も興味を持って楽しんでくれた。「南京玉すだれ、ばか面踊り」には日本人スタッフもにんまり。草の根ならではの企画のESL授業は、元柔道少年だったスタッフのツテで柔道教室へ集った子どもたちに教えることとなった。本人希望の20名を遥かに超える60名を前に、楽しく授業を行ったダイアンさんに拍手。

さよならパーティではスタッフ手作りのフラワーアレンジメントや盆石、市民の四重奏、Aさんの心のこもったお料理など、さりげない演出で終始なごやかなムードだった。

最後のお別れ時、寡黙なB君が長い文章でお礼を言ってくれた。なんだか感激した。

両国民友好のきっかけとなるこの大会に参加でき、とてもうれしく思っている。平和の道も一歩からではないが、今後も根を増やしていければと願ってやまない。

(8) Boulder Youth Symphony in 渋谷教育学園幕張高校・附属中学校

学校訪問が大会開催の20日前くらいに決まり、その後の楽譜のやり取りや交流内容など、担当者の不在(修学旅行のため)もあり、全てがぎりぎりに運んだ。しかし、渋谷幕張校の先生や関係者の皆様のご尽力により、充実した楽しい交流ができた。生徒達も大変印象に残ったそうで、皆さん喜んでくださった。

また、3時間目のマリンバとバイオリンの演奏は素晴らしく、この時間はホームステイファミリーも駆けつけて、総勢12名で音楽交流を楽しんだが、至福の時を独り占めした感があり、「このような素晴らしい交流になるなら、もっと多くの人にお知らせして、聞いていただきたいかった」と口々に言っていた。(学校の施設利用の関係で実際は難しかったのだが)

このマリンバ演奏をしてくださった奥村さんから、この日の感想をいただいたので掲載させていただきます。

「昨日は最高に幸せな一日を過ごすことができました。年甲斐もなく皆様の前ではかなり緊張してしまいましたが素敵な団員の方々と一緒に演奏させていただいたり、バイオリンの方に生で「チゴインエルワイゼン」を聴かせていただいたことは、私にとって最高の思い出となりました。私事です今年4月にとても素敵な先生との出会いがあり、何年も遠ざかっていたマリンバを家族の理解と応援のもと始める事ができました。その先生からは、テクニック、音楽的なことは勿論のこと、楽器に対して・・・一つ一つの音に対して・・・聴いて下さる方々に対して・・・等等、いろいろなことに対しての心を学んでいます。私自身一日も早く人の心に溶け込めるような演奏ができるよう、これからも努力していきたいと思っております。このような素晴らしい機会を与えていただいた事に心より感謝いたします。本当に有難うございました。」



(9)日米子ども交流コンサート

米国から2団体を迎え、日本側は5団体が出場し、3時間に及ぶ共演となった。会場はほぼ満席の700人。子供達は出演するだけでなく、それぞれの団演奏を鑑賞でき、た。日本側は日頃の練習成果を発表し、見事に整った演奏であった。一方、体から湧き出てくる情熱一杯でリズム感溢れる、米国シカゴ児童合唱団の1時間ステージ演奏には特に熱い拍手が会場から送られた。

コンサートの後の交流パーティーは、お互いの紹介、日米の歌の交換、写真の取り合いやアドレス交換などあっという間に予定の1時間が終了してしまった。草の根交流としては、フォーマルなコンサートだけでなく、交流パーティーはそれ以上に子供達にとって貴重な体験となったと思われる。



(10)～チャータースクールの現実と日本の教育～(特別分科会)

本分科会の入り口は、「チャータースクール」というアメリカの新しい形の公立小学校が、様々な教育問題を抱えている日本においても新風の可能性として注目を浴びてきているが、果たしてアメリカで生まれた「チャータースクール」が日本においても本当に必要なのか？という観点から入った。

本分科会にアメリカより3人のゲストの方、日本でチャータースクールの運動に関わっている方2名をお招きし、それぞれの講演、パネルディスカッションで日米の教育問題を明らかにしながら日米の草の根活動参加者が共に今後の進むべき方向性を見つけ出すというゴールに辿り着くことができた。

まず、アメリカに20数年間在住し、海外子女の教育に携わっている「海外子女教育情報センター」の松本輝彦氏から、アメリカの教育の目的は、「民主主義を守ることであり」ということを前提に、多民族国家であるが故に、抱える人種問題、貧富の格差、教育レベルの格差など、諸問題に対応しきれなくなった公教育の現状についてのお話をいただいた。民主主義を守るということは、自分達のことは自分達で決めるというスタンスが必要である。荒廃してしまった公教育に変わる、よりよい教育を自分達の手で作るという発想のもと生まれたのがチャータースクールであるという、チャータースクール誕生の根本的なニーズを聞くことができた。

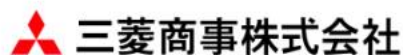
そして「チャータースクール」のRealityを知るためにCalifornia州のEl-Solという「チャータースクール」のFounderであるSusan Mas氏に設立の動機、目的、背景、運営状況、メリットのみならず苦労している点など伺った。El-SolがあるSanta Anaという地区は住民の70%がSpanish系で、英語をうまく操れない家庭が多々ある。そして比較的所得が低いAreaであることから、移民者が母国語であるスペイン語を守りながら、且つ、これからアメリカ社会で生きていくための英語、社会教育を行う公立のEl Solチャータースクールが必要であったというお話を伺った時に、先ほどの松本氏の話がよりクリアになった。

しかし、財政面でのやりくりはとて深刻な問題であり、州の税金だけでは到底学校経営など成り立つわけがなく、Donation獲得のための活動を頻繁に行っている。資金面を含んだ学校経営を支えるのにチャータースクールにとって、必要不可欠な存在であるのは、父兄である。

そこで次にEl Solにお子さんを通わせているGerardo Mouet氏から父兄の役割についてお話を伺った。父兄の役割は、ボランティアスタッフとしての先生の支援、学校施設の修繕を請け負ったり、資金面でも多大な努力をしている。Gerardo氏が中心となって行った「Parent Raising Money」という資金獲得のイベントの際には、一晩で何百万もお金をDonationで集めたという。自分の子供によりよい教育を与えたいという親のパワーのすごさに会場一同、ため息を交えながら感銘を受けているようであった。

分科会の最後は、日本においてチャータースクールの活動の第一人者でもあり、「湘南小学校」に関わっている田中さつき氏と、当分科会が開催された市川市で教育問題に取り組んでいる「みんなの市川教育フォーラム」の高山嘉代子氏に加わっていただき、「教育に必要なものって？」というテーマでディスカッションをしていただいた。

現役の小学校の教師でもある田中氏から今の教育現場が抱える問題や、日本では法的な規制があり「チャータースクール」の認可が非常に厳しい状況であることをお話いただき、日米の抱える教育問題がパネリストの方、会場の方にも非常にクリアになって伝わってきた。そうした教育問題や社会問題を考察していくうち、今後、日本、アメリカ共に更なる多様化が求められるという合点が導き出された。多様化に対応していくためには、トピックである「チャータースクール」も一つの手段であり、可能性であるが、自分の子供に、国民によりよい教育を与えよう！という熱意と熱意を具現化することが一番大切なのではないかという思いが会場の中に一致しながら会を終えることができた。





4. 閉会式・フェアウエル・パーティ (10月19日(日))

(1) スペシャルイベント

- 16:00 ~ 16:30 千葉女子高等学校オーケストラ部、
ボウルダー・ユース・シンフォニー
習志野第一中学校管弦楽部演奏
- 16:30 ~ 16:50 シカゴ子供合唱団演奏
- 16:50 ~ 17:20 “Kimono Show” 装道きもの学院千葉県認可連盟



(2) フェアウエルパーティー

- 主催者挨拶 …… あんさんぶる・ちば 代表 内海 道郎さん
- 次期開催地挨拶 …… アメリカニューイングランド(ボストン)大会開催地プレゼンテーション
ボストン・ジャパンソサエティ理事長 ピーター・グリリーさん
- アトラクション …… 東京音頭(振り付け指導あり)、和太鼓演奏



<参加者の声>

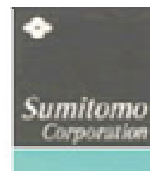
ボランティアの声： スペシャルイベントは、十分に企画され、演奏会もきものショーも大好評であった。惜しむらくは、会場にライティング照明の設備がなく、千葉女子高校から2基お借りして演奏会を行ったため、最後のきものショーのときには、薄暗い中でショーになってしまったことは残念である。習志野第一中学校管弦学部、千葉女子高校オーケストラ部、シカゴ合唱団は、スタンディングオーベーションは出るほど大好評であった。

閉会式・フェアウェルパーティでは、スペシャルイベントから会場へ移動するのに時間がなかったため、また予想以上の450人もの入場があったため、開始時間が過ぎてしまった。最後に盆踊りを行ったが、薄暗い中、イベントボランティアの千葉神楽太鼓のみなさんや踊り連のみなさんが一生懸命参加者を指導いただき、楽しい輪が出来上がってフィナーレを迎えたことは成功だったといえる。



NEC

AEON



東京電力
TEPCO

5. 堂本千葉県知事来訪

10/18朝8:30～45 ビアンカ

堂本千葉県知事のご来訪が急遽スケジュールされた。さすがに県知事とご対面できるとだけあって、各地域分科会会場への出発時間間近のとても忙しい最中だったのにも関わらず多くの米国人が参加した。

最初は堂本知事による流暢な英語で歓迎のスピーチがあり、その後で米国参加者1人1人と握手をして、にこやかに記念撮影に応じていた。ほんの短い時間ではあったが、普段は日本人ですらも直接お目にかかる機会が少ない県知事を身近に感じる事ができたひと時だった。



6. ホテルライフ

10/18朝8:30～45 ビアンカ

メインの宿泊先である幕張プリンスホテルにもさまざまな準備が参加者を迎えていました。

1階ロビーには受付ブースが設置され、各種インフォメーションなど米国人参加者に様々なケアを行い、受付ブースには、無料のインターネット接続及び国際電話ブース(提供:NTTコミュニケーションズ)が設けられていて、米国に残した家族や恋人との連絡に大活躍し、大変好評だった。

そのほかにホテル内の1室に大会実施本部が設置され、大会期間中は朝6:30からボランティアスタッフが常駐して各種作業や緊急時のコントロールセンター的役割を果たしていた。大会前からの諸準備と、大会期間中のボランティア、そして大会終了後のケアなど、まさにボランティアの活躍により大会の成功が導かれた。

